

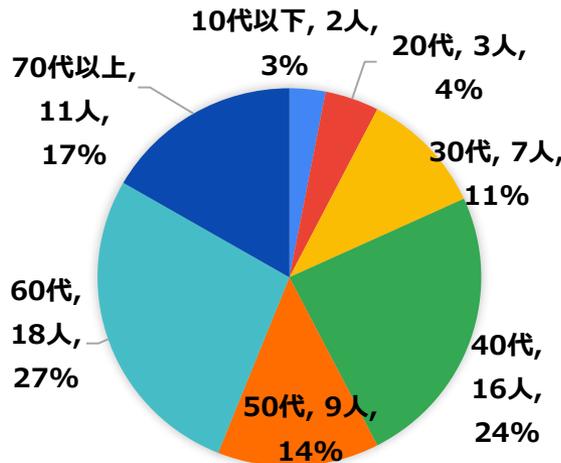
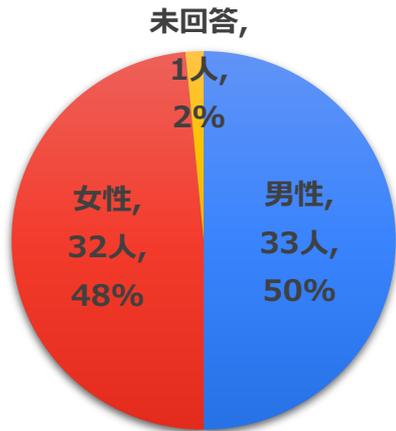


令和7年7月30日に発生したカムチャッカ半島付近の地震に伴う津波警報時の避難行動について、町民を対象にアンケート調査を実施しました。なお、アンケートの実施にあたっては、北海道防災士会道南ブロックの実施する「7.30津波警報・避難指示に伴うアンケート」(webアンケート)への回答を依頼する形で行っており、調査結果については、アンケート回答者のうち、八雲町在住者および勤務者のデータを抽出しております。(調査期間：令和7年8月6日～9月30日まで 回答者：10代から70代以上までの男女 66名)

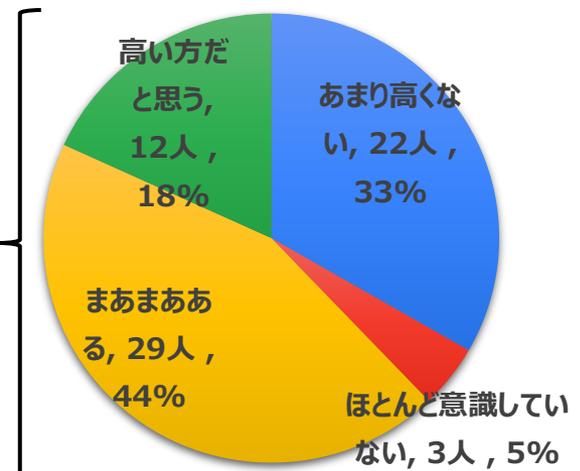
Q2. 性別をお答えください

Q3. 年齢をお答えください

Q6. 防災意識について



防災意識高いグループは全体の62%



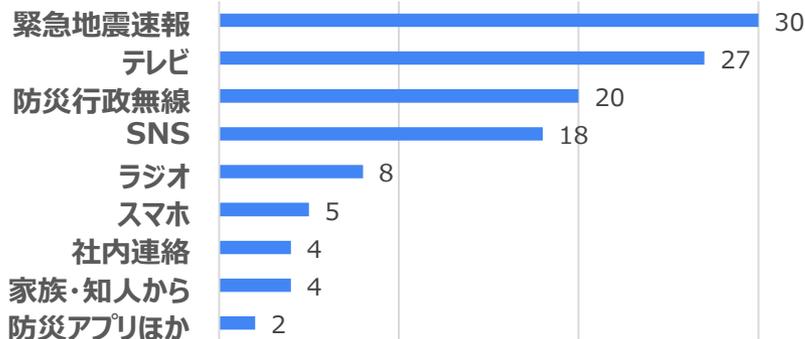
アンケート回答者は66名で、男性33名、女性32名、未回答1名で、男女比率はほぼ同数。

年齢別では、60代が最も多く（18名）、次に40代（15名）、70代以上（11名）、50代（9名）、30代（7名）、20代（3名）、10代以下（2名）となっており、中高年層の回答が全体の約80%を占めている。

全体的に回答件数は多くないので、あくまで参考値としてのもことになるが、「まあまあある」「高い方だと思う」と回答した防災意識の高いと自覚しているグループは全体の62%で、「あまり高くない」、「ほとんど意識していない」と回答した防災意識が低いと自覚しているグループは全体の38%であった。



### Q9. 津波警報を知った手段は何ですか？

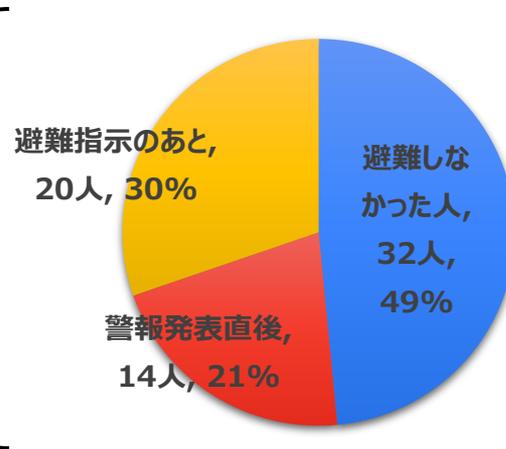


津波警報を知った手段について複数回答してもらったところ、緊急地震速報が最も多く、次いでテレビ、防災無線、SNSが続く。

緊急地震速報やテレビ、防災行政無線については、Jアラート、Lアラートと連動しており、即時性が高い。

### Q11. いつ避難を開始しましたか？

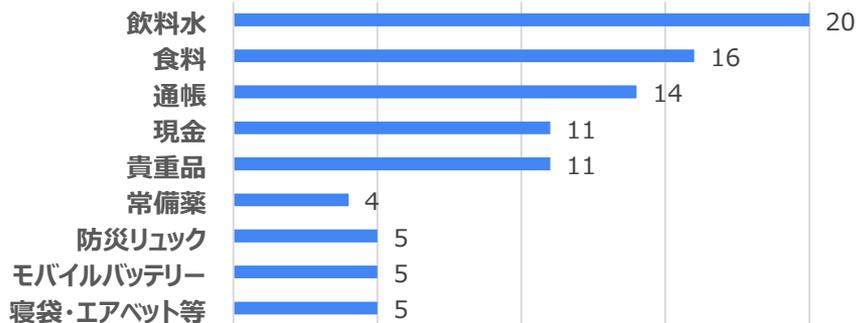
避難した人  
34人、51%



#### 【避難しなかった理由】

- ① 対象区域外・安全性の認識 16人**
  - ・避難地区対象外だったため。
  - ・住んでいる場所が安全であるから。
  - ・職場は津波到達地域じゃなかったから。ほか
- ② 津波リスクの過小評価 6人**
  - ・津波の影響考えられなかった。
  - ・自宅まで津波は来ないと思った。
  - ・ここまでこないと思った。ほか
- ③ 避難場所・環境の問題 4人**
  - ・避難場所がすぐに思いつかなかった。
  - ・近所では誰も避難していなかったから。
  - ・避難先に冷房設備が無く、気温も30度越え。ほか
- ④ 職務・業務の制約 6人**
  - ・漁労中であった。
  - ・職務のため。
  - ・職場から避難は必要ないと言われた。ほか

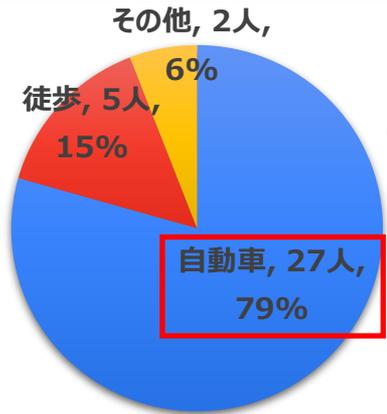
### Q13. 避難の際に持参したものがあればすべてお答えください



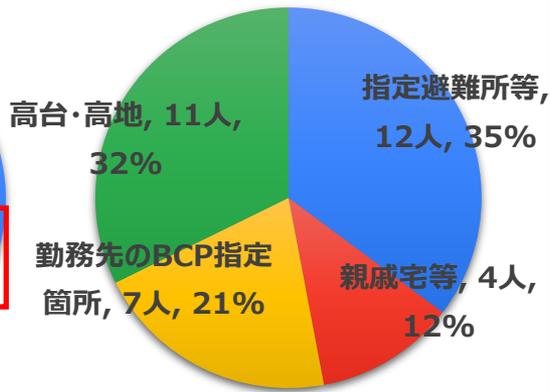
避難した34人のうち、避難の際に何も持たないで避難した人が7名（21%）、飲料水や食料などを持参して避難した人が27人（79%）であった。突然の警報発表だったことから、飲料水、食料、通帳などの最低限のものを持出したと思われる。



**Q14. 避難の際の手段を教えてください**

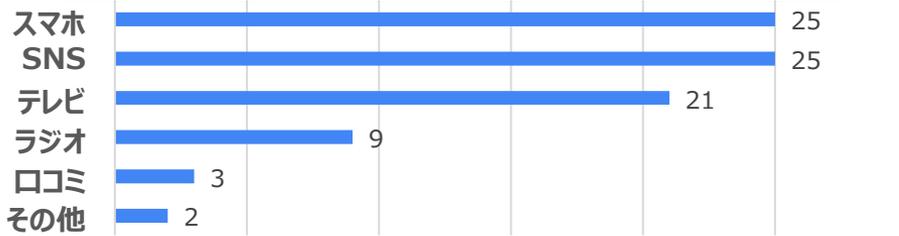


**Q15. 避難先はどこにしましたか？**



避難の手段として、原則徒歩避難とされているが、実態として、徒歩避難が15%、**自動車避難が79%**となっている。  
また、避難先については指定避難所が35%、高台・高地が32%、勤務先BCP指定箇所21%、親戚宅等が12%となった。

**Q17. 情報源：当時何から情報を得ていましたか**



避難中の情報源としては、スマホ、SNSが最も多く、次いでテレビ、ラジオが続いている。災害時の情報収集については、信頼できる公的機関の情報をいち早く収集できることからスマホ、SNS等の利用が増えている。

**Q16. 避難前、避難中に困ったことがあればご回答ください。  
Q20. 避難して、困ったことがあればご記入ください。**

- 道路・交通関連
  - ・踏切での渋滞。
  - ・徒歩で車がなくて移動が大変。
- 避難情報・連絡手段
  - ・避難経路の看板がない。
  - ・町指定の避難場所がわからなかった。
  - ・避難所に行った方がいいのか、避難所の状況が知りたいかった。
  - ・避難所の情報が欲しかった。（車内にいたため）
  - ・自治体からの避難指示、避難場所開設の発令が遅い。
  - ・保育園に保護者からの電話が殺到。
  - ・保護者に一斉に連絡する手段がないので、ひとりずつ電話連絡するしかなかった。
- 物資・生活必需品
  - ・飲料水、食料。
  - ・スマホの充電器、現金、車等がないと困ると思っていました。
  - ・現金、食料、飲料水、スマホの充電器がなく困った。
  - ・避難所で食料が配られなかった。
  - ・コンビニが閉まって昼食を調達できなかったため、家に戻って少ないジャーのご飯で小さいおにぎりを握って会館に戻った。
  - ・車中に防寒用の準備をしていたが、水、食べ物がなかったので途中で購入。
  - ・飲料水は指定避難場所にて配布されていたので良かった。
  - ・避難している人数以上に水や毛布を役場から届けていただきありがたかった。
- トイレ・衛生環境
  - ・トイレがなくて困った。
  - ・地区内の会館へ行ったが施錠されていてトイレに困った。
- 避難所環境
  - ・避難所での一人の避難スペースが狭かった。
  - ・避難先の駐車スペースが空いていなかった。



### Q18.避難先から職場や自宅へ戻った時間帯



津波警報の解除は20時45分。ほとんどの人が警報発表中に避難をやめた。

### Q19.避難をやめた理由について

- ・津波の被害はなさそうだったため：18件
- ・周りの人たちが戻り始めたため：6件
- ・避難場所が長時間滞在できる場所ではなかったため：5件
- ・水や食料などがなかったため：4件
- ・避難指示が解除されたため：3件
- ・一緒に避難していた方がトイレ等のこともあり帰宅を希望した：1件
- ・園児を全員帰し終え、職員で反省し帰宅する準備のため：1件
- ・職場からの指示：1件
- ・役場総務課から電話で避難解除の連絡があったため：1件
- ・津波注意報が解除されたため：1件

避難した94%の人が津波警報の発表中に避難を帰宅しており、避難指示の解除以降に帰宅した者は全体の6%であった。

テレビ等で第一波の映像が流れ、被害はなさそうと自己判断したものと思われる。また、周りの人たちが戻り始めたため避難をやめた理由も多く、**正常性バイアスと同調性バイアスが大きく働いたものと思われる。**

### Q23. 今回の津波警報を通じ、感じたことなど

自由記述で頂いた意見を分類し、主なものを抽出しました。

- 防災意識・行動 13件**
  - ・防災意識向上の必要性を痛感した。
  - ・職場用に、防災バッグを準備して備えたいと思った。
  - ・避難訓練を地域ごとに定期的に行う必要があると感じた。
  - ・防災意識の低さや正常性バイアスの影響を感じた。
- 情報伝達 6件**
  - ・防災無線が聞こえない。方法を再検討してほしい。
  - ・防災行政無線の声は機械音で聞き取りづらいし気持ち悪い。
  - ・出稼ぎの人間なので避難所の場所もわからない。
  - ・町の避難指示の情報発信が遅過ぎる。
- 避難所設備 11件**
  - ・避難先に、夏、冬を過ごす設備が無い。
  - ・避難する時期において必要な設備を避難所に設置できる様、早急に検討し、設置してほしい。
- 食料・物資 6件**
  - ・長時間の避難には食料関係、トイレ用品等の準備が必要。
  - ・避難所開設と同時に食事も迅速に配られるよう対応してほしい。
  - ・必要な物をすぐ持参出来るように用意しておけば良かった。（食料、飲料水、スマホ充電器、現金等）
- 避難行動 29件**
  - ・近所では避難しない人が多数いて驚いた。
  - ・地震が伴っていない津波警報ですぐ行動することが出来なかった。
  - ・車で避難したが、道路の公共工事現場で停止させられた。
  - ・避難場所への経路について看板があれば避難しやすい。
- 事業所・行政対応 18件**
  - ・会社の上層部が「様子見」として避難を促さなかった。
  - ・国道5号線、高速道路が通行止めになれば避難する手段がなくなる。
  - ・町の重要施設を建てるのであればよく考えて作ってほしい。